

1 開会

（菅原教育部長）

定刻になりましたので、これより平成 30 年度第 1 回酒田市総合教育会議を開会いたします。

本日の会議の進行を務めさせていただきます教育部長の菅原でございます。どうぞよろしくお願いいたします

本日、7 名の方から傍聴の申し出をいただいておりますのでご報告いたします。なお、本日の資料については、傍聴者へ配布させていただくことといたします。

最初に、丸山市長からごあいさつをお願いいたします。

2 あいさつ

【丸山市長あいさつ】

教育委員会の皆様ご苦勞様でございます。総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。振り返ってみますと平成 27 年度から始めて、今回で 9 回目になります。何回かいろんなテーマで議論させていただくなかで、教育行政に関する私の考え方を新たにしたところもありましたし、私の思いを皆さんにお伝えすることもできました。日に日に傍聴する方が増えていくのも好ましいことだと考えています。開かれた議論を市民の皆様にご直接聞いてもらう、教育委員会と市長がこういう議論をして、教育について考えているんだ、ということを知ってもらう上で、良い機会だと考えていますし、この会議の存在、開催の予定等をオープンにしていきながら、この地域の教育にもっともっと関心を持っていただきたいと考えているところです。昨年度 2 月に、3 回目でしたかね、開催いたしました前回の総合教育会議では、「次期酒田市総合計画と酒田市教育等に関する施策の大綱について」というテーマでお話し合いをさせていただきました。総合計画につきましては、3 月定例議会で議決されまして、酒田のまちづくりはこういう指針です、方向で向かうんですということも議決をいただいて、今年度からすすんでいるわけです。

詳しくお話させていただきますが、酒田市の教育等の施策の大綱というものがございまして、総合計画に沿った形で手直しをしないとイケないかなということで、素案作りをさせていただいています。今日の会議は一定程度事務局を含めてまとめた素案をみなさまにお示ししながら、その中でみなさまのご本意、ここはちがうんじゃないかといった意見を聴いたうえで、案をまとめていきたいと考えているところです。総合教育会議が終わりますと、パブリックコメントだとか、議会への説明をし、意見を求めながら、まとめあげたいと思っておりますが、まずは教育等に関する施策の大綱というものは、総合教育会議で教育委員と協議をしてまとめあげていくというしろものですので、みなさんからご意見をいただければなと思っています。

結びになりますけど、この総合教育会議をとおして教育長、委員のみなさんと問題意識を共有しながら、酒田市における教育行政にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。限られた時間ではありますが、忌憚のない活発なご意見をお聴かせいただければありがたいなあと思っているところです。本日はお忙しいところご参集いただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(菅原教育部長)

ありがとうございました。続きまして、村上教育長からごあいさつをお願いいたします。

【村上教育長あいさつ】

教育委員会を代表いたしまして、ごあいさつ申し上げます。

丸山市長におかれましては、忙しいスケジュールの中、総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。

教育委員会制度の改革が進んできておりますけど、酒田の教育委員会の制度改革については、私としては、非常に前向きに進んできているのではないかと考えています。特徴としては、学びながら進む教育委員会といってもいいのかなと思います。教育委員会はいわゆる非常に安定的に進むということが求められているわけですが、一方では、非常に専門的な話になっていくわけです。そうしますとその都度その都度、重要な方向性について、いろいろな考え方をしながら前へ進むということで、ここまで来ている。例えば、先般の文化芸術条例にしても、今求められている文化芸術とは何か、勉強会を開催しながら進んできている。その上で議論をしている。さまざまな分野で研修を深めたりしてここまで来ているのかなあと感じて感謝しているところです。今日は、市長が掲げられたテーマ「酒田市教育等に関する施策の大綱の改訂について」ひとつに絞って、十分な時間を用意していただいて、意見交換できることは、本当にありがたいこととされているところです。さまざまな考え方を学びながら前へ進むということが必要になってくる。そういった考えはなぜどのような背景で出てくるのか、なぜそちらの方向性に進むのかを学びながら進むと、私としてはありがたいなと思っているところです。

今後の教育委員会の方向性を決める上で非常に大切な会議とされているので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議

(1) 酒田市教育等に関する施策の大綱の改訂について

(菅原教育部長)

ありがとうございました。

それでは、これより協議事項に入ります。ここからは、市長に座長をお願いいたします。発言の際には、皆さま席に座ったままでお願いをいたします。なお、時間としましては概ね1

時間程度と考えておりますので、みなさまよろしくお願いたします。

(丸山市長)

今日の話は非常に重い話題なので、1時間という時間厳守で申し分けないのですが、中身の説明は簡略化させていただきますけど、みなさんのご意見を中心に進めていきたいと考えております。事前に教育委員会で資料や素案をお知らせさせていただいているということで、今日は資料を3枚ほどご準備させていただいていますが、傍聴の方にも包み隠さず出すように指示して共有させていただいていますので、みなさんこういう計画ができるんだなというのがわかるようにしています。まず1枚目「酒田市教育等に関する施策の大綱の改訂について」。左側にあるのが、なぜ改訂が必要なのかということが書いてありますけど、総合計画ができたから添った形で見直しをかけるんだよといったことですか、下の対象期間を見ますと、時期にズレが出てまいりますけど、総合計画は市の最上位の計画であって、その中でも教育に関する部分が盛り込まれていますので、大綱もこの計画に沿って直しましょう、酒田市の教育振興基本計画が2019年で切れるので、見直しがかかる。それにはこの大綱が影響していく。ほかに第6次山形県教育振興計画というのがあります、そういったものも当然踏まえて、大綱や教育振興基本計画の見直しも図っていくんだろーと思っております。こういった対象期間と改訂に当たっての趣旨等をご理解いただいた上で、3の「酒田市教育等に関する施策の大綱(改訂案)」がございます。方針ですから、個別具体的な中身は書いておりませんが、6項目に集約させていただいたところです。項目については、それぞれ目を通していただきたいと思います。そして2枚目が現行改訂案と説明及び変更点が並んでいる資料です。現行の大綱がどうで、改訂案がこのように変わっていて、なぜそう変えたかという説明があります。特に大きく変えている点にアンダーラインを引いております。その辺を見ていただければなあと思っております。改訂案では1番に「人間力」という言葉を入れさせていただきました。人間力とは何ぞやというところが話題にはなるんだろーなとは思いますが、これは説明のところにもありますけれども「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」を育てます、となっていますけど、第6次山形県教育振興計画というのがありますけど、タイトル部分に「人間力」が出てくる。「人間力に満ちあふれ山形の未来をひらく人づくり」という部分。そこには人間力その定義が書いてありますが、そもそも平成15年当時に人間力戦略研究会が「人間力戦略研究会報告」を出していて、その中に人間力という言葉が頻繁に出てきます。最初に出てくるのが人間力をどう捉えるかということかということなんですけど、社会に生き社会を作る人間をモデルにということで、そこにもいくつか書かれていますが、やはりことばではないが「知徳体」より時代に合致しているのかな、という感じがしまして、事務局とはやり取りして盛り込んでいただいた。基本的には、山形県第6次教育振興計画にもきちんとありますし、整合性も取れているのかなと認識を持っています。人間力をどういうふうに理解すべきかというのが、委員のみなさまから意見をいただければなあと思っております。

2つ目は、本文部分は変わっていないのですが、アンダーライン部分が入ってしまして、駅

前にライブラリーセンターを中心とした酒田コミュニケーションポートを整備しようとする計画が動き出していますが、これもかなり大きいプロジェクトでありますし、拠点作りというときに、このことを意識して大綱の中に盛り込ませていただいたところです。その狙いは、酒田に愛着を持ち続け、地域社会に貢献できる人材を作るためのひとつの拠点になってもらえればな、という思いで書かせていただきました。

3番目の項目は、項目自体は前と変わっていないところですが、学習環境はソフトハードいろいろなものがあるかと思えます。両方あると思っていまして、やはり、この地域の学習環境がほかの地域と比べて遅れているか進んでいるかということもありますし、教育支援員の配置は進んでいるかと思っていまして、6月議会でも質問が出てきましたエアコンの普通教室への設置については遅れていると思っています。何が大事かをしっかり議論して計画的に整備していく必要があるということと、人間力をはぐくむ意味での豊かに学びあえる学校であって欲しいなど、学校教育という狭い範疇でなく社会教育も巻き込んだ形で学校も地域教育・家庭教育を意識する時代だと思えますし、地域社会・家庭も学校教育を意識しながら、総合的に豊かな人間力をはぐくむような教育環境を作っていく必要があるのかなということで、入れていただいた。

4番目は、「産業」というところが入っています。問題になっているのは、酒田を離れる若い人が多いのが、これが人口減少につながっていくという中で、世界で活躍する人材を輩出するのも地域の教育にあっていい話だが、地元の企業に就職するといった意味合いもありますし、産業界で貢献できる人材を送り出していきたいという思いもありまして、意識的に産業という言葉を使わせていただいた。産業が疲弊してしまえば、その地域の疲弊につながることも鑑み、教育機関と産業界との連携もあっていいのかなと。家庭、学校、地域、広くいえば産業は地域の中に入ってくるのかもしれないが、産業界との連携を外出したのは教育の場面でもちょっとピックアップしてしてみたいなという思いがありました。あと、もうひとつ「幼児教育から高等教育までの教育機関が連携し」という言葉は、事務局から知恵を出してもらったが、生まれてから社会人として巣立つまでが人間力形成の中で教育機関が果たす役割が大きい中で、小中高というこれまでの枠組みをもっと広く解釈させていただいた、という思いが入っています。

5番目については、言葉を少しわかりやすくした。生涯学習とか生涯スポーツに対する姿勢を新しく盛り込ませていただきました。スポーツということも健康づくりに重要な意味を持つ教育活動の一翼を担う部分だろうなということで意識的に表現させていただいています。それから文化芸術の関係が出てきますけれど、県内で初めて文化芸術基本条例を作ったまちでありますから、そういう面ではひとつ旗印に、酒田市の教育の施策の大綱としても、入れております。

6番目は、酒田のこれからの地域づくりの中での大きな看板になるかなと、もうひとつ歴史文化遺産の活用がありますけれども、実は文化庁もいま変わっていて、10月から組織も大きく変わるんですね。歴史文化遺産の保存と活用ということで、もともとあるんですけどそういう方針がね。なかなかそれが実践できてこなかったということもあり、保存と活用とい

うことに焦点を当てて、私のほうで言えば山居倉庫の活用だとか、そういった動きも踏まえて載せていただいた。

まあ、雑駁ではありますが、中身を少しいじくって改訂をさせていただきました。

それから3枚目ですね。3枚目は総合計画とすり合わせというか、総合計画が変わったからこれも変えるのだという位置づけでしたから、総合計画がどういう形でどこに結びついていくのかということ、わかりやすい矢印表記をしたのがこの表であります。総合計画については、こと細かく説明する時間がないので、目を通していただければなあと思いますけれども、いずれにしても総合計画の第1章は人材育成であります。それが施策の大綱にどう結びついていくかということでの参考資料として今回付けさせていただきましたので、全部結びついていきますよということで、ご覧いただければなあと思います。私からの説明はこの辺にさせていただきます、皆さんの意見を聴きたいなあと思っておりますので、自由な発言で結構ですので、どうぞ気兼ねなくお話をさせていただければなあと思います。

浅井委員からお願いしたいと思えます。

(浅井委員)

まず、大綱1番の人間力についての話がありましたが、勉強不足だったものですから、事務局からもらった資料などを見ると、今は人間力が大事にされないといけないな、ということがわかったし、県の6教振でも基本目標で最初に人間力に満ち溢れたという言葉を使っているわけです。人間力という言葉は、大切な言葉なので入れていくことは良いと思ったのですが、文科省の新しい指導要領に使われている「生きる力」との関係をどのようにとらえればいいのか疑問に思ったところでした。文科省のいう「生きる力」については、人間力といったものを含んでいるのではないかと私自身は考えてみたところでした。県の6教振では基本目標で人間力を前面に出していますけれども、文科省の新しい指導要領では「人間力」については前の指導要領に比べればそういう考え方が出てきますけれども、メインとしてはやっぱりまだ「生きる力」なのかなと。学校教育課の先生方に聞いてもらえればすぐわかることかと思いますが、ただし、これは大綱ですので必ずしも「生きる力」を入れなければならないといったものではなく、市長の考え方ですので、どういう言葉でもかまわないと思えます。今後、大綱が教育振興基本計画に下ろされて、また各学校に周知されたときに、先生方が「人間力」と新指導要領中の「生きる力」との関係をどのように捉えるのか、少し考えてみたいと思ったところです。

2つ目でしたけれども、現行の大綱の6番「地域課題に共に取り組む高等教育機関との連携」の中に「大学まちづくり」がありますが、改訂案では言葉としてはなくなっていて、事務局の説明では4番の「高等教育との連携」に入れ込んだという説明があったかと思いますが、どうなのかなと思ったところでした。総合計画の第1章の政策が4つあるうちのひとつとして「大学のまちづくり」を推進していくことが大きく書いてあるわけですね。「大学のまちづくり」が改訂案に無くてよいのかと疑問に思ったところでした。ただ、今日初めて見た資料の関連図を見たときに、大綱は総合計画第1章の政策3と政策4の関連について書

いてあります。「大学のまちづくり」は政策2に書いてあるので、政策2は外すということで、大綱に盛り込まれなかったのかなと今思ったところです。でも酒田市にとっては、「大学のまちづくり」と「公益の心をはぐくむ」の二つは、公益大があるからこそ掲げていくべき目標なのかなと思ったので、疑問に思ったところでした。

最後、3点目でしたけれども、4番の家庭、学校、地域の連携に、今回、産業が加わって、さらに連携が協働に置き換わっていますので、これをもってさらに関係を強めていくんだなと理解したわけですが、産業といった場合に、市長の言葉で言うと教育機関と産業界との連携をもっと活発にしていきたいという話があったと思いますが、その中身の問題なんですけれども、たとえば現在、高等教育機関との連携ということで光陵高とやっているわけですね。それからミスマッチ解消といったことですか、地元定着の促進などさまざまなさっている。学校教育の場においては、中村ものづくりだとか今年度から始まった小中高連携ものづくり事業とかやっていますよね。そういったことを私はイメージしたのですが、それらを充実させていこうということが、この「産業との協働」ということになるのか、いや、もっと中身を充実させていく考え方があるのかな、と思ったところでした。というのも、市長が先ほど挙げられました、人間力戦略研究会の報告書を見させてもらうと、たとえば人間力評価のために学校ではといった部分で、キャリア教育をもっとすすめなければいけないですとか、今年度から学校教育で取り組んでいくわけですが、キャリア教育へ企業からもっと参画してもらったほうがいいのではないかと、学校でやっている総合的な学習の時間に企業の協力をいただいたらどうかという部分については提言も出ている。ほか、ネットで調べると茨城県の教育委員会の取り組みでは、全県でもって企業が家庭、学校、地域をバックアップしていく仕組みを県の教育委員会が中心になって作っている。学校で企業を呼びたいときに、このような内容で企業を呼んで授業ができますよという一覧表があって、そこにアクセスしていくと呼べるといった取り組みをしている。今酒田でやっているようなことに、また酒田で目指しているようなことに付加して、そこら辺までやることもできるのかな、といったことを考えてみたところでした。忙しくなるでしょうけれども大事なことかと思えます。

以上3点でした。

(丸山市長)

浅井委員から3項目ほどありましたけれど、それを聞いてのご意見も含めてありましたら。

人間力ですが、人間力戦略研究会の話があってその話を出したわけではなくて、県の6教振のタイトルに出ているのも頭に無かった。なんとなく気になっていて、前の大綱にありました「知徳体」や「命を大切に教育」もいいんですけど、もっと集約したような言葉は無いんだろうかということで、出てきたのが人間力で、巷にとおっているはなしで、後付でよくよく調べるとこういうふうに使われているので、なおのこと使いたいなと思って入れ込んだのが実際のところなんです。

生きる力との関係は、おっしゃるとおりだなと。どっちがどうなのかということと同じような

捉え方もあるし、生きる力でも良いんだと思いますね。今の社会を生きる力ということ、何が求められているかということで、結局言っていることは同じということ。おっしゃるとおり生きる力は大事な話ですし、あえて言えば、学校教育においてめざしている生きる力となっていますね。教育等に関する施策の大綱は、学校教育に限った話でなく、高等教育も社会教育も家庭教育も含めて、地域に、場合によっては高齢者に当てはめても良いくらいの大綱ではないのかなと思っていたくらいなので、やっぱり人間力のほうが良いのかなということで、学校教育とか教育指導による分野にこだわらない言葉としては、人間力という言葉のほうがいろんな場面で展開しやすいのではないかと、先ほどの話を伺って自分なりに頭を整理しました。

「大学のまちづくり」についてはおっしゃるとおりですね。その言葉を掲げながら大学と連携しながら、人づくりの面でも産業振興の面でも交流人口を増やすことをやっていこうよと。大学を市がまちが市民が支える、市を大学が市をまちを支えるという関係のまちにしたいと言ってきたので、言われてみると無いのがちょっと確かにね、というのがありますがでも、殊更言葉には出していないんですけど、事務局でも話されていましたが、2章2項目とかですかね。そういったところに包含をさせていただいている、3も関係があるんですけど。全般にわたってみんな関わってくるかなあということもあって、あえて言葉としては残さなかったというのが、私としては正直なところ。私の思いとしてはですね。そのことについてはどこかに載せるべきだというのは、おっしゃるとおり総合計画にちゃんとありますので、政策の2にひとづくりとして絡めていますので、あってもいいのかなという感じではありません。

産業の言葉については、浅井委員おっしゃるとおりだと思います。産業界からも関わってもらいたいし、教育の場にもっと活用できるのではないかということです。最近の例で感じたのは、本間ゴルフの工場の視察に行っただけです。中国の大使が来たときですね、同行して行っただけですけど、実は初めて中を見ましてですね、えーっ、こんな技術で匠の人たちが。しかもあれだけの工場は日本ではあそこしかない、と説明されてましたから。みなさんそういう意識って大人も持っていないけど子どもも持っていないと思うんですよね。そこで働いている人たちは地域の皆さんですし、ひょっとしたら自分のお父さんお母さんかもしれない。あれだけの技術で世界に売り込んでいるものを作っただけで、しかもさらに「メイドインジャパン サカタ」と刻印されている。こんなに誇らしいことは無いのになあ。これをもっと学校で、視察会の中で見聞きできたら、子どもたちに影響を与えるんじゃないのかなあという思いで視察させていただいた。そういう意味では本間ゴルフの工場長さんも「視察はウェルカムですよ」と言ってくださったんで、であれば子どもたちにも見せたかったなと。本当に見学して面白かったんですよ。そういった意味の産業、今は産業を観光に活かそうという動きもある中で、教育に活かす、あるいはもっと教育と密接な関係を持つ中で教育効果を高めていくということも必要でしょうし、学校教育だけでなく社会教育、地域教育も含めてもっと産業界が前面に出てきてもいいのかなあという思いを持ったものですから。産業という言葉がいいのか、ほんとは産業界と入れてもいいんでしょうけども、あえて家庭、学校、

地域、産業とさせてもらった。何々界というと語呂として良くないかなと、ただし表現上中には産業界と入れていますね。この「界」をどう扱うかというのがありますけども。説明書きの中だけ「界」が入ってますけど、どうなんだろうなあっていうのがありますけれど。産業についてはそういう意味合いで。もっともっといろんな取り組みがあるような気がします。学校も社会教育もそうですけど、取り込んでもらえればなという思いがあって産業を入れました。教育委員会としては仕事が増える方向での書き方になっていますので、最初教育委員会事務局と議論したときは、産業という言葉は確か入っていなかった。私が入れ込んだんですよね。

それでは神田委員からお願いします。

(神田委員)

2点申し上げます。

まず、人間力というところなんですけども、この定義を見ても重要なことはよくわかるわけなんですけども、一般的な用語としても用いられるような形になってきていまして、それぞれの方が使う人間力の意味合いがだいぶ異なっているのかなということも感じております。今回内閣府の資料を見ますと、人間力はこのような力だということが定められていまして、さらに教育に落とし込もうとした場合には、より具体的に人間力とはどのような力かというところを見ていく必要があるかと思いますが、内閣府の資料を見ますと、コミュニケーションスキルであるとかリーダーシップとか、というような内容が出てきますんで、結果的には例えば経済産業省が言っている社会人基礎力と同じような内容なのではないかという読み方もできるわけです。そうなってきた場合に、この力を育てていくということがですね、いわゆる社会人、ビジネスマン養成だということになってしまうと、学校教育の目的の一部ではあると思いますが、若干ずれるのではないかと、それ以外のものもあるであろうというように感じております。キャリア教育というのは当然職業観を持たせるであるとか、将来仕事に就いて体験を通して自分の適性を理解していくという側面もあるかと思いますが、それはワークキャリアということになるわけで、いかに生きていくかというライフキャリアの側面も必要になってきます。また、学校教育の場合には、いわゆるコミュニケーション能力やリーダーシップというような社会が求めるような能力を伸ばしていくだけでなく、個性の伸張といったところも求められてくると思いますので、人間力で定義されているような能力が高くない児童生徒はダメな生徒だということではなくてですね、そのほかの個性といったところもしっかり伸ばしていく必要があると思いますし、そういった個性を伸ばしていくことで社会では求められるような人材になっていくんだというような視点が入っていると思うんですが、それをうまく読み取れるかどうかというところが気になるころではございました。

2点目は、産業の部分なんですけど、現在、学習指導要領の改訂もあって、小中学校においても何を教えるのかではなく、何ができるようになるのかを重視していますし、高等教育においても学校教育における質保証というところが求められるようになってきています。そ

のような社会になってきますと、今後は学歴社会ではなく学習暦社会、何ができるようになってきたのかということを実証していくような社会になってくると思います。産業界においても人材育成は必ず続いていくものと思いますので、それぞれのフェーズにおいてどのような能力をどこまで高めていくのか、これはまさにキャリア教育になってしまうんですが、そういったことについて産業界も含めて対話をする事ができると、それぞれ今はこういう力が必要ではないかという推測で人材育成をしている部分も若干あるかと思いますが、明確な目的を持って力を付けていくということができないのではないかということになりますので、産業界を入れていただいたというのは、今後対話がより充実した形で行なわれるのではないかなということでも今後大変期待しているところです。また、現在政府では人生 100 年時代構想という話も出てきておりました、今後ひとつのところで生涯ずっと働くことはなかなか無いわけです。また、AIの進展であるとかビッグデータの活用というような中で第4次産業革命というようなキーワードも出てきておりますけど、先の見えない社会の中では社会人の学び直しというのも当然必要になってくると思います。その社会人の学び直しのようなものも、この産業界と高等教育機関の連携というように入ってくるのかなと思いますし、また、5番の生涯学習というところにもそういった面が入ってくるのかなという風に感じられましたので、今後必要になるそういった新たな教育というものが盛り込まれているなと感じたところです。

(丸山市長)

今のお話で何か関連でありましたら。なかなか難しいですね。おっしゃることよくわかりました。確かに人間力に、個性の伸長という言葉ではなかなか人間力にはストレートには入ってこないかもしれないですね。むしろ、先ほどの生きる力だとそういう部分は包含されている言葉ではないかなあと感じて聞いておったんですけど。解釈ではどのようにも解釈できるので個性の伸張も含めて人間力だと言えばそれで通る話だが、ポーンと言葉が入ってきたときにどういうイメージができるかってなると、ちょっと考え込まないとイメージできないところが人間力という言葉にはあると思います。産業についてはまさにおっしゃるとおりでありまして、地場リカレント教育も含めて産業界というのは重要だと思っておりますので、そういった意味合いも含めて項目の説明書き中にどう表現できるか事務局に検討していただきますけれど。産業という言葉を入れたことについては評価をいただいたということで報告させていただきたいなと思っていました。

それでは渡部委員お願いします。

(渡部委員)

前回2月の総合教育会議の冒頭で丸山市長から酒田市総合計画の一丁目一番地は、住民との協働によるまちづくりだ、というお話がありました。改訂前の4番も家庭・学校・地域の連携も非常に大切だというお話がありまして、それに関連づいて、先週ある活動に参加したものですから、少しお話をさせていただきますが、23日の土曜日に最上川スワンパークで

マコモ植栽活動というのに参加してきました。酒田市白鳥を愛する会と三中との連携協働による活動で、今年で26年目を迎えたそうです。学校側の強制ではないんですが、三中生の約8割、400人くらいと地域の方30名くらいが参加されていて、行政の支援のもと、白鳥のえさとなるマコモを植栽しました。見ていて、生徒が川に入って泥んこになって楽しそうに植栽する姿、その姿を見ている地域の皆さんの笑顔、それを見ていると私も自然と笑顔になって、そういう状況がありました。その中で校長先生が白鳥を愛する会の会長さんが会報に記した一文を照会していました。白鳥を愛する会の精神である「人を愛しものを愛し動植物を愛する心を育てよう」、この精神が26年かけて理解されてきたのかなと感じている、という文章を校長先生が生徒に紹介していました。この連携協働に一步踏み出すことも非常に大切ですし、マコモ植栽活動のように単発ではなく継続していくとか、繋いでいくというのは大切だなと感じたものですから今日この話をさせてもらいました。今回この家庭・学校・地域のところに、新たに産業が追記されました。地域活性化を推進するために、未来を担う人材の育成に産業界との連携というのは、私は非常に大切だと思います。私自身もそうでしたけども何ために今勉強するのか、そしていま自分が勉強していることは将来どんなことに役に立つのか、そんな疑問を持ちながら勉強しましたけども、ベースとしての学力は非常に大切ですが、自分の将来像をイメージして、受け身ではなくて主体的に前のめりになって学ぶことというのは、これからの予測困難なこれからの時代に生きぬく力になるのかなと思います。自分が将来どんな仕事をしたいのか、社会の中で自分の役割はどんな方向性にすればいいのか、キャリア教育の中で今まで以上に積極的に、そして同じような理念を持って産業界と連携できれば良いなと思います。そんな中で東京にはキッザニアという100種類くらいの職場体験ができるアミューズメントがあって、開業から10年以上も経っていますが、いまま大盛況だという話がありますが、酒田にそういう施設は無いですし作るの難しいかと思いますが、6月に酒田にグランドオープンしたサンロクですね、酒田市産業振興まちづくりセンター、私も時々寄らせてもらっていますが、人と人、企業をつなぐ新しいネットワーク作りの拠点でもありますよね。子どもたちにもこのサンロクのような常設で交流しやすく楽しい雰囲気、地元の企業や団体とか若い起業家のみなさんのような、自分の親じゃないきらきらした大人の人とつながれる場所があれば地域の活性化につながるんじゃないかなと思います。

最後に大綱の6番、文章の中にある「自由で多様性を認め合う」という部分がありますが、私はこの多様性という、まあダイバーシティ、大事なキーワードかと思います。画一的ではなくて多様性を持った集団というのは非常に強く、企業とか組織とかのリーダーというのは強いリーダーシップが大切だとは思いますが、社員が社長すべて言いなりなのではなくて、多様な視点とか個性を大切に作る集団のほうがやっぱり強い集団になると思います。これから、人口減少等々さまざまな課題が待ち受けていると思うんですけど、そんな中でも少し尖っていて骨太な、人間力という言葉が合うかどうかわからないですが、そういう人材が育成できればいいなと思います。

(丸山市長)

ありがとうございました。総体としては、良く評価いただいたという風な理解を勝手に受け止めさせていただいていますけども、確かに教育の場面でもサンロクのようなものがあるということは、教育委員会の中で少し議論していただきたいなあと思いますが、今度サンロクをそういう場としても間口を広げていくということはあってもいいんじゃないかと思います。それが産業界と教育との連携という広がりの中で、サンロクの機能を拡張していくことがあってもいいのかもしれないと聞かせていただきました。別にビジネスの範疇だけでサンロクの活動を展開しないで、小中高大も含めて活動を作り上げていくことは可能かなあと思います。

それでは岩間委員からお願いします。

(岩間委員)

今回酒田市の教育の大綱ということで、トータルで見て義務教育だけにとらわれないで、一生涯をかけて酒田で学んで生きていくための子どもも大人も通じる大綱になっているなあと感じました。酒田、湊町、庶民の町ということですから、大綱のように新しくできた産業界という言葉も私もすごく共感をしたというか、新しいものに加えてこちらもぜひ重きを置いて充実したものになるといいなあと思いました。十年一昔といいますけど今は五年一昔といわれる時代で、その時代に合わせたもので少しずつ変えていく中で、総合計画にあわせて変えるいい機会だったのかなあと思っております。市長も本間ゴルフさんの話をされましたけれども、私も社員の力を伸ばしていくためには、渡部委員もおっしゃっていたように社長の指示でしか動けないのではなく、社員自らが動くことで会社全体が良くなる。言いなりではなくて、といったところをしていくと企業の発展にもつながるとするのは、いろんな勉強会にも行きましたし、そういったところを小さいときから自然と学べるようなものがあると、大人になって周りを助けて、できる子とできない子を見ながら、自分ができることで、会社の中でもリーダーシップのある人とフォロワーとかいろんな中でうまく回していくようなものを、商売のマネージメントゲームとかいろんなものを使いながら、小さいうちからやっていく機会がこういったもののベースに具体的な方法のひとつとして確立したら面白いなあと思いました。サンロクの中でやってみたりとか、学校教育のプログラムの中でカリキュラムの中でしようとする先生方の負担も増えて大変になるでしょうから、そういったところは商工会議所とか青年会議所、いろいろなところの事業とか企画、そういったもののマンパワーを借りながら、そういったところで連携するということをすれば学校の先生方も自分たちでそういったことも含めてやるのでなくて、どこが主導でもかまいませんので、大綱をすべてのところでうまくすり合わせをして、人間力ってどういうものかを学ぶだけでも、私も資料をいただいて線を引ながら見ると、教育というものが会社にも通じるなあと思いながら、自分でもっとこれを詳しく勉強したいなあと思いました。小さいときから一緒に学んで、大人になっても、私も学生の頃は勉強があんまり好きでなかったんですけど、社会人になってこういう立場になって、どんどんいろんなものに学びたいというものが芽生えてきましたので、

いつの時代からでもスタートできるよということで市の大綱があったらいいなと思います。

(丸山市長)

ありがとうございます。私も教育委員会と議論する中で意識したのは、学校教育だけの話じゃないんですよということですね。幼児教育というか、保育園で本来やるべきことも含めてなんですけども、家庭教育も入れればですね、本当にこの大綱は、乳幼児教育から始まって高齢者教育にいたるまでの全てを網羅する大綱であるべきだろうという思いで、あまり学校ということを中心にすえた捉え方ではないような表現を少し入れ込んだところなんです。そういう意味では途中からでも大綱に沿って学習なり活動に参画できる仕組みも開かれている大綱になっていけばいいなという思いは私も持っていましたので、そのように読んでいただけたということは本当にありがたいなと思います。ありがとうございました。

現実的には表現上手直しするところがあるのかもしれませんが、それは一回お預かりさせていただいて整理をした上で皆さんにお示ししていきたいなと思いますけど、全体の流れからすると皆さんから一応評価はいただいているのかなという思いで、これからの作業を進めていきたいなと理解をさせていただきました。ありがとうございました。

そういうことで時間が一定程度経ってききましたので、いろんな場面で教育長とは私の教育に対する考え方もしゃべらせていただいていますし、普段何を考えているかというのも十分わかっていると思うんで、みなさんの意見を踏まえながら施策の大綱、現行の大綱を作るときには、申し訳ないですけど作らなければいけないという思いがありましたので、これまでの流れを踏まえて教育委員会の考え方を私も踏襲しつつ、これで行こうという話をしたんですけども、今回についてはですね、その手直しではありますけども、だいぶ筆を入れさせていただいたつもりでおります。それはなぜかということ市長が決めるものだということが、大前提としてあるからですね。教育委員会の教育行政に対する権限を侵すわけではないんですけども、私が決めると。私の思いを反映させてもらっているのかなという思いがあったので、いろいろな言葉を変えたり盛り込ませていただきました。そういったことの経緯も村上教育長よくわかっているわけですし、そういう意味で大綱に対する整理を教育長にお願いしたいなと思います。

(村上教育長)

一回目市長にどうでしょうかって行ってからしばらく時間経ってから、ほぼ完全塗り替えのような状態で回答が来てから大慌てだったんです。この形に来るまで事務局を含めて、事務レベルでは相当やり取りしてきました。その中に私も時々は入らせてもらっているので、少し細かいところについては別にして、大雑把な話をさせてもらって勘弁願いたいんですけど、何と言っても1番のインパクトですよね。大綱の1番。正直言って前のやつだど義務教育なんですよ、枠組みとして学校教育、しかも義務教育を一丁目一番地にしましょうという発想で書いているところなんです。ですから知・徳・体とかいのちとかなっているのは、そういうところを背負わせているんですね。ところが1番が市長のご説明のように根本的に

というのではないのですが、ものすごい大きなインパクトとしてこの度の改訂になるということでした。私のほうから見てですね、ひとつは教育を社会のほうの目から見たらどう見えるのか、あるいは社会は教育にどういう期待をしているかという視点がものすごく色濃いです。それを何を望むかというのはいろいろな議論があると思うんですけど、視点を社会の側に転換している、今までの発想ですと教育の内側から子どもが育っていくプロセスを最高重視して、それぞれの個性に合わせて、しっかりそれぞれの子どもたちを育てていきたいと思いますという内側の見方なんですけど、だから生きる力ということもあるんですけど、それをまったく否定もせず、またどちらが良いということも無く、視点を社会のほうに変えたときに何を教育に期待しているか、それは人間力といってもいいものを期待しますと市長が言ったのかなと私はまず受け止めました。そして重要な点の一番のインパクトなことは、さっき岩間さんがおっしゃったように義務教育に限定しなかったということです。これは今までに無い1番の起こし方です、むしろ今までこうだったのといわれる幼保の幼児教育の問題と高校の問題、そして公益大を含めた大学の問題を全体としてトータルでこういうふうにしたいと市長が言ったと受け止めたんですね。例えば高校の話ですと、県立高校の話とかいろいろありますけど、この間市長とやりとりしたのは南高の話なんですよね。南高校が今教育改革をしようとしているようだというのが開校式の式辞等で述べられているようだったんですけど、じゃどういう高校生を育てようとしているのというのは、非常に校長の思いが現れているんですよね。そうするとなるほどなあと市長が思ったとおっしゃっているんですけど、そういうふうに、しなやかで強くて、問題を解決していきながら、それでも自分はどこかで役に立っていかうとする、つまり文科省で言う「馳プラン」というのがあるんですけど、より良い社会を作るという目標を共有したいという、それを文科省も取り入れたんですけど、そういう発想で見ているのかなと思いました。ですから1番目のところは、トータル、義務教育だけでなくトータル、しかも視点を一回外に置いてみて期待されるものを言ったんじゃないかなと思います。じゃ人間力という言葉って何というふうにどんどん磨きをかけていって削いでいって、じつはこれだと、コンパクトにやるのはいいことだとは思いますが、私は逆に、それはある程度まで行っただろう、定義付けはいいんですけども、意義は付加したほうがいいと思うんです。「意味」は限定的に削いでいってもいいんですが、「意義」は付加したほうがいい。こういう人間力となれば、こういうことも期待されているんじゃないか、こういうことも期待されているんじゃないかという、その込められた意義は太らせたほうがいいと思うんです。そのほうが幸せな施策が生まれるんじゃないかなと思いました。

次に私にとってインパクトだったのは、社会教育の視点ですね。完全に社会教育を充実させるというのがちりばめられています。学校教育に対する期待も市長はお持ちだとは思いますが、色としては社会教育がものすごく濃いという感じがいたしました。文化芸術の話だって大変な話です。図書館の話もそうですし、学校教育だけでなく、例えば企業ということも発想するのも、社会の力で子どもを育てていくということですよ。そこにあえて産業とかも入れて、社会教育を充実させようということですよ。市長は生涯教育という言葉も大事だけれど、意図的に狙いをはっきりとした教育をもっと推進したほうがいいんじゃない

かっておっしゃいますが、社会教育が強いんじゃないのかなというふうに思いました。そして、そういったこと全体としてマネジメントしてくださいねと、そうやって酒田の教育を充実させましょうという方向に行っているのかなと私は思います。私は義務教育も当然扱っているんですから、それを手放すことはまったくありません。じゃ義務教育はどこにいったの？ということなんですけど、義務教育の使命は生きる力という言葉であったりだとか、いろいろな言葉とは思いますが、だからこそ義務教育で果たさなければならない使命をしっかりと行なっていく必要がある。ただそのときに今までの資源をマネジメントすることを考えると社会教育だとか社会の力、それを使って子ども達を育てたいという発想は、私たち、教育委員会にとっては応援団になるのでないはないかと思っています。社会のほうから見た教育の充実を図るときに、社会のほうからって言うけれども、最終的にはこういう教育をやっているまちだから、ここで育てたいというふうな形を作っていく方向に行かなければならないと思う。ただ学校だけの努力ではできないんですね。このまちで教育を、わが子を教育させたいと思う、そういうまちを作るには、どういうふうにして総力を挙げたらいいかということが謳われている感じがするわけです。そうすると社会教育、あるいは文化芸術、あるいは立派な活き活きとした図書館、あるいはもっと様々なことが行われていて、酒田の教育っていいね、うちの子供ここで育てたいねというふうなところを目指していきたいなということですね。そういう意味で枠組みが広がりつつ、市長の立場で、まちづくりをする立場で、はっきりと現れているのかなと、私はそう思いました。

(丸山市長)

ありがとうございました。非常にうまくまとめていただきまして、さすが教育長うまいなと思って聴いておりました。社会教育の視点が私の中にあるとすれば、社会教育にいたもんですからね、浅井先生もよくご存知のとおり社会教育主事として仕事をした関係で、ものの見方がそこからスタートするというのが確かにあるんですけど、一方であまり社会教育というと、社会という視点から見たというときに、社会が変な方向に行く時代も今まであったわけですね。その危険性もあるんで、あまり社会社会というのは、社会の動きが全て正しい方向で進んでいるかということ、そうでない場合も多々あるというのは、歴史的に我々が経験している話なんで、そうならないような社会を良く持っていくという意見を取り込んでいくような環境というか、それをベースにしたうえでの社会教育というのは大事かなと思っています。そこは注意をしつつ、あんまり強権的にこれでいくんだとあって、そのとおりに進まなきゃいけないみたいな、そういうものであってはならないと思っているので、そうならない仕組みづくりというのも必要かもしれないですね。もっともそれは教育委員会という組織はそうなんだろう、だから市長部局から離れたところであって、そこに文化とかスポーツとか含めた形で教育運営を全部お任せをするということによって、首長の独善をチェックする機能を持っていたらいいかなと思っています。特に私の思いとしては、子どもたちも含めてですけど人材育成というのは地域づくりの要だという思いがありますので、その思いだけは大綱の中に盛り込ませていただいたということだけご理解をいただければな

と思っております。教育長がうまくまとめていただいたので、方向性としてはこういった形で、これからパブリックコメントってあるんですよね。議会のほうにも話を詰めていきますけども。こういった方向で5年間の大綱を決めていただいて、これに様々な施策がぶらさがって行くわけですけど、教育委員会からがんばって頂ければと思っているところでございました。

すみません。時間オーバーしましたけども、今日はみなさんの意見を踏まえた形でスケジュールに沿って出させていただくということになりますけど、具体的には、最終的な策定はいつ頃になるんでしたっけ。30年度からなんで実際に始まっている理解なんですけどね。

(企画管理課長)

パブリックコメントを7月中、7月6日から行う予定でございます。その後パブリックコメントの意見等踏まえながら、表現等に修正があるかどうかを確認させていただきながら、8月中には大綱の改訂まで漕ぎつけたいと考えております。

(丸山市長)

議会のほうにもお示しをしながらということですよ。

(企画管理課長)

はい。

(丸山市長)

ということで若干ずれることもありうるわけですけど、30年度からの施行ですのでなるべく遅れないような形でしていきたいなと思っております。ありがとうございました。一定程度みなさんの意見もお聴きすることができて大変良かったなというふうに思います。

(菅原教育部長)

どうもありがとうございました。概ね時間通り終了することができました。次回の会議日程ですけれども、具体的な開催時間、協議事項等につきましては、改めて事務局よりご連絡を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

ほかに、その他として、皆さまから何かありますでしょうか。無いようでしたら、本日の会議の協議事項については以上といたしまして、これで終了させていただきたいと思っております。

4 閉会

(菅原教育部長)

これをもちまして、平成30年度第1回酒田市総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。